

『東京理科大学教養教育研究院報 Arts and Sciences』（ぜひ通称で「A and S」と呼んでください！）は、教養教育研究院の先生方の「今」をお伝えすることを目指したリーフレットです。年に1回の刊行を予定し、先生方の多彩な研究内容や最近の活動などについて、楽しくご紹介していきます。研究とはあまり関係のない？先生方の様々な「おすすめ」も必読です！

学会報告

障害学会大会開催の報告

9月14日（土）と15日（日）に、葛飾キャンパスを会場として障害学会第21回大会を開催しました。今回の大会は、教養教育研究院の堀田（野田キャンパス）と西倉（葛飾キャンパス）が、障害学会の古くからの会員として大会校を引き受けることになりました。

障害学会（Japan Society for Disability Studies）は、2003年に創設された比較的新しい学会で、昨年度に20周年を迎えました。障害学会は、障害者が被る不利益の原因は個人の身体ではなく、社会の側の障壁にあるという立場から、当事者を含めて多くの研究者が集まる学際的な学会です。東京理科大では社会的障壁という意味での「障害」を主題にする研究や取り組みは未だ途上ではありますが、今回の大会を契機として、大学としても様々な取り組みに繋げていければと思っています。

障害学会では、情報保障として、すべての口頭報告に手話通訳と文字通訳が付きまします。また、会場のバリアフリー状況にも細心の注意を払う必要があります。さらに今大会は、様々な理由で会場に来られない会員を想定して、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催しました。準備にあたっては、葛飾キャンパス教養部の先生方と葛飾キャンパスの事務職員のみなさんにたくさんのご協力をいただきました。

葛飾キャンパス所属の学生のみなさんには、大会当日のスタッフとし



堀田 義太郎
（野田キャンパス教養部）

おすすめのテレビ番組：
ドキュメント 72 時間
（テーマ曲も含めて）



西倉 実季
（葛飾キャンパス教養部）

おすすめのクラフトビール：
ナギサビール（南紀白浜）

て尽力いただきました。学会実行委員会のメンバーからも、学生のみなさんの働きを称賛するコメントをいただいております。運営責任者としても大変感謝すると同時に、教員として誇りに思っています。



学会会場の様子。発表や質疑応答の内容は、発表者の隣にいる手話通訳士による手話と、発表スライド下部の文字表示によって情報保障された。

研究紹介

古代・中世製鉄

ヨーロッパの冶金考古学の基礎を勉強してから、刀鍛冶と製鉄遺跡の関連性を研究して20年が経ち、製鉄復元実験（ヨーロッパも日本も）に参加して18年が経ちます。パリ・ソルボンヌ大学で日本の鉄生産と刀鍛冶の考古学をテーマにした博士号を取った後、広島大学で考古学専攻の博士課程後期に入学し、単位取得で退学しました。その間、2009年から唯一現存する日刀保たたら製錬所の木原明所長兼村下（むらげ たたら職人頭）の指導を受け、2010年に初めて広島大学で製鉄実験を担当しました。その後、ほぼ毎年（年に2～3回）たたら製鉄実験に参加し、これまで26回の製鉄実験・操業をした経験があります。

2022年に東京理科大学に着任してから、古代・中世日本における鉄生産を復元するために製鉄炉の炉材に注目し、炉壁の混和材として用いられた植物性の繊維に焦点を当て遺物を研究したところ、江戸時代初頭以降の製鉄炉では繊維が利用されなくなったことがわかりました。この繊維の存在とその後の消失は、これまで詳細な研究の対象とされたことはなかったため、繊維の研究を通して、製鉄技術において繊維が果たしたであろう役割とその重要性を明らかにし、近代的なたたら製鉄法において繊維が消失した理由をより深く理解したいと考えています。研究の第一歩として、使用された繊維の種類を同定するデータベースを作成し、炉壁片の物理化学的分析との相関関係を調べました。これらのデータを、現代のたたらや、日本

ミシェル田中 グザヴィエ
（野田キャンパス教養部）

おすすめの古墳：童男山 22号古墳



の伝統的な左官職人が用いた繊維の混合法と相互に参照し、古代製鉄炉の復元の仮説を立てました。そこで、今回の製鉄実験を行い、仮説を検証し、繊維が果たしたであろう役割と、それらが消失した理由についての仮説を検証するつもりです。

そして驚くべきことに、野田キャンパスにごく近い流山市東深井では、1982年に奈良時代の製鉄遺跡が発掘されているのです！このことは近隣でもあまり知られていないそうですので、私は流山市東深井で出土した炉を復元し、野田・流山の地域の歴史に注目させるきっかけとしたいと思っています。さらに今後も日本における鉄生産の技術的発展についての理解を深めながら、原料の管理を通じて、製鉄炉の建設が当時の社会に与えた影響の解明につなげたいと思います。



2024年11月の野田地区理大祭で行う製鉄実験の準備は夏から始まり、9月には粘土採掘作業が行われた。英語教室のJennings 先生も駆け付けた。



過去の製鉄実験の様子。火を見守って、鉄を育てる。

今さらながら着任のごあいさつ

2024年度、教養教育研究院に4名の先生が着任されました。野田キャンパス教養部の中尾元紀先生とヘズボン・オンディバ先生、葛飾キャンパス教養部の陳宣聿先生とマイケル・ホフメア先生です。先生方は教養教育研究院にすっかり溶け込み、日々一緒に仕事されていますので、着任のごあいさつをいただくのは少し「今さら」な気もいたしますが、研究内容の紹介を中心にして、一言ずつごあいさつをいただきました。

陳 宣聿（葛飾キャンパス教養部 嘱託助教）

私の専門は宗教学で、現代社会における宗教の役割、そして人々の日常生活にまつわる宗教実践に関心を持っています。中でも胎児生命観の変遷をテーマに研究をしてきました。今年度は宗教学、フィールドワーク講義、比較文化論などの授業を担当しています。

着任してから、刺激と挑戦の連続です。授業準備や研究発表などに全力疾走し、あっという間に今年も四分の三が過ぎてしまいました。改めて教育と研究、生活のバランスとリズムを取ることの重要さに気づきました。今年は

実現しませんでした。来年こそ葛飾キャンパスで勤務する機会を活かし、周辺の菖蒲まつり、川施餓鬼などに参加していきたいと思っています。先生方の温かい見守りに感謝しながら、任期中に諸々精進して進めていきます。



おすすめのタピオカミルクティー：天仁茗茶の913 ウーロンミルクティーラテ（タピオカトッピング）
お気に入りの霊場：恐山

Michael Hofmeyr（葛飾キャンパス教養部 講師）

After joining the Institute of Arts and Sciences at TUS this April, my life has been rather busy. The new challenges included designing class materials that would make engineering students want to speak English (which was harder to do than when I taught English-language majors at my previous university), working on committee projects, making some progress with my research plans, and unpacking all of the boxes in my office. I am glad to report that after the first semester, I now feel comfortably settled in and more confident in my new teaching context as well. All this is in no small part due to the help and encouragement I received from my wonderful colleagues at Katsushika Campus, who have without exception been very

supportive since my arrival, and even before that as well. I look forward to collaborating with them further on many new and exciting projects into the future. I am also keen to keep experimenting with new approaches to teaching English as a foreign language, such as through AI-based tutoring systems, in order to improve our students' competence and also their confidence in using English to discuss their work and their interests.



Favourite sushi: salmon onion nigiri 🍣
Recommended app: Tennis Bear (テニスベア) - app for recruiting tennis partners anywhere in Tokyo - just let me know if you'd like to play!

中尾 元紀（野田キャンパス教養部 講師）

4月に着任しました中尾です。専門分野は国際法学で、特に（補償や加害者の責任追及といった形で）是正・救済されるべきと評価される人権侵害と、そうでない侵害とを分かつものが何であるかについて、戦争や時際法を切り口として考えています。十二支を一回りする寸前であった母校での生活から一転、理科大での半年間は新鮮で刺激的なことばかりです。前期はてんてこまいな毎日を過ごしていましたが、ようやく野田キャンパスの豊かな自然に目を向けられるようになってきました。し

かし、油断をすると人目を憚らず利根運河の魚やエビを獲りに行ってしまいそうな危うさを感じているので、もうしばらくは帯を締めておいた方が良さそうです。というわけで、理科大の生き物スポットをご存じの方は、ぜひともご教示いただけますと幸いです。



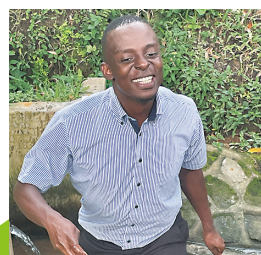
おすすめの熱帯魚：ナノストムス・ベックフォルディ
お気に入りの建造物：神戸ポートタワー

Hesborn Ondiba（野田キャンパス教養部 嘱託助教）

くんには、ケニア出身のヘズボン・オンディバです。10年前に来日し、筑波大学で環境学の博士号を取得しました。私の研究は、現代技術と伝統知識の融合に焦点を当て、特に人工知能を活用して、消滅危機にある言語を復活させ、保存することを目指し、アフリカと日本の協力促進と若者主導の共創プロジェクトに取り組んでいます。日本の最先端技術とアフリカの多様な文化や言語は、文化遺産を守りながら持続可能な発展を促進する革新的な解決策を生む可能性を秘めています。

東京理科大学の学生の熱意と、STEM分野から人文学ま

で幅広い専門知識を持つ教員の方々に日々感銘を受けています。TUSは温かく活気に満ちた学術コミュニティです。私の目標は日本とアフリカの繋がりを強化し、最先端技術を用いて社会問題を解決する新しい方法を模索することです。研究と教育を通じて、皆様と一緒に世界的な課題に取り組めることを楽しみにしています。



おすすめの休暇都市：沖縄（自然を愛する私にとってまさに楽園のような場所です。）
お気に入りのラーメン：豚骨ラーメン

少し気の早い退職のごあいさつ

2024年度末をもって、神楽坂キャンパス教養部の片山七三雄先生がご退職されます。片山先生は1994年に東京理科大学に着任され、現在に至るまで31年間、主に英語教育に尽力されてこられました。まだ12月ですので少し「気の早い」ようにも思いますが、片山先生から退職のごあいさつを頂戴し、また、片山先生とお仕事をされてきたお二人の先生から、贈る言葉をいただきました。

「志望校が母校に」…ならなかったけど、志望校が職場になり、自己実現させてくれた、そんな東京理科大学に感謝します



大学史懇談会での
ご報告の後に

片山 七三雄
(神楽坂キャンパス教養部)

私は、高校は理数科に入学し、理系大学に進学希望でした。大好きな理系、特に数学が勉強したくて、私立理系としては東京理科大学理学部数学科を模試で第一志望校として書いていました。そして将来は理数系教員になろうと。高校三年生の一学期までは…。

この後、新たに英語教員の選択肢が加わり、結果的に理系のまま英語教育の道に。英語は「点数が取れる」けれど、本質を「理解」できずにモヤモヤしていた状況を(理系的に)説明(解決)したかった…ということだと思われまふ。

そして大学の専任教員となって30年、理系学生に囲まれて、様々な自己実現ができました。特に嬉しかったことは、20年位前から専門科目として「数学のための英語」「化学のための英語」「物理科・化学科の卒業研究」を徐々に担当させていただけたことです。これで高校時代

に描いた「理数系教員」の夢が実現できました！と同時に、授業はもちろんのこと、15年にわたる自主ゼミを含めて、理系学生(45年前の、あり得た自分)を対象に英語教育を実践・研究することで、自己発見(モヤモヤの解決)ができました。私が目指していたのは「理系向英語教育」だったのだと(詳細は、「『理系的』英語学習法の薦め』『科学フォーラム413号』及び「理系のための英語教育」…考(https://www.elec.or.jp/research_report/4787)」をご覧ください)。

このように充実した教員生活を過ごすことができたのは、同僚の先生方が、私のやりたかったことを存分にやらせてくださったおかげです。皆様方に深く感謝すると共に、今後の益々のご発展をお祈りしつつ、この4月に退職いたします。

ありがとうございました。

贈る言葉 20年来の感謝をこめて

片山先生とは何度か帰り道を一緒にさせていただきました。その都度、いろいろな話題が出ましたが、ご専門の英語教育について話をなさる時の先生の生き生きとした様子は実に印象深いものでした。高校は理数科に進まれたご経歴を活かし、「理系向け英語教育」を研究軸の一つに据え、授業はもちろん自主ゼミをはじめとする授業外の教育にも情熱を注がれた先生のご指導を受けた学生は、理科大で学べた幸運を喜んでいるはず。幸運ということで申し上げれば、私自身、先生を通じて理系の学生に英語を教える教員の在り方を目の当りにできた幸運をかみしめています。20数年にわたって先輩教員としてお導きいただきありがとうございました。4月以降、学務から(やっと)解放された分、ご自分の時間を十分に楽しまれることを願っております。

☆片山先生にまつわるエトセトラ☆

- 郵便史、交通史のご専門家でもあります。クイズ番組の解説者として登場なさったご経験をお持ちです。
- 片山研は電気が消えることがない！？先生は在室時間を長くとり、学生がいっつも相談できる環境を整えていらっしやいます。



松本 和子
(葛飾キャンパス教養部)

贈る言葉 あこがれの授業

こういう授業ができればいいのになあ、と思うことがありますね。私の場合、それは片山先生の授業です。片山先生が理系学生に対して「理系のための英語」のお話をされる時、英語を苦手とする学生の目が希望で輝きます。

片山先生は、立ち往生している学生の視野を広げ、希望を持たせ、動機づけを高めてくれました。片山先生、長年にわたり学修者各位のご指導を賜り、素晴らしい模範を身をもってお示しくくださり、誠に有難うございました！

☆片山先生にまつわるエトセトラ☆

先生の本棚を見ても、ご専門を推測することはできません。物理学、経済学、自動車運転法などあらゆる分野の本が並んでいます。そんな先生が最も尊敬されている人物は、レオナルド・ダ・ヴィンチです。



森田 泰介
(神楽坂キャンパス教養部)

葛飾キャンパス教養部の本田宏隆先生が、2024年8月25日、沖縄の地で急逝されました。本田先生は、1987年に東京理科大学に着任され、2021年の教養教育研究院の創設以来、葛飾キャンパス教養部長・副院長として、組織の基盤整備、教育・研究の発展に多大なご尽力を賜りました。本田先生のご冥福をお祈りし、先生と特に親しくお仕事をされてきたお二人の先生に、本田先生を偲んでお言葉をいただきました。



偲んで
本田宏隆先生を

本田先生との思い出

私が本田先生と出会ったのは、24年前です。思い出を語れば、本一冊分でも足りないのですが、ここでは1つだけ、本田先生の先見性を示すお話をご紹介します。私の長万部赴任当時(2001年)に、本田先生は「前々から考えているのだけど、携帯できる小型モニターに実験説明が映るようにできると学生実験時に便利だ。そのシステム構築に協力してもらえないか？」というお話を化学実験担当の私に熱心にしてこられました。単なるアイデアではなく、2006年には、携帯型ゲーム機の画面に、サーバーに置いた実験説明ビデオを映し出すシステムを本田先生主導で作り上げました。構想が私が本田先生から聞いてから9年後(本田先生は構想自体、もっと前から持ちでした)の2010年に、同じような機能を持つiPadがAppleから発表されました。その後は、実験説明ビデオを流す装置を小型ゲーム機か

竹内 謙 (北海道・長万部キャンパス教養部)

らiPadに切り替えました。これはほんの一例ですが、AppleのJobs以上の先見性を本田先生はお持ちだったことを示しているかと思います。それ以外にも、本田先生からは、幾度となくアッと驚くようなアイデアを教えてくださいました。「本田先生は、今は副院長という重責を担っているで、忙しくてなかなかアイデアを具現化する時間もなさそうだけど、その後は、また色々なことを実現していくのだろう」と思っていました。しかし、それが叶わなくなってしまったのは、東京理科大にとっても、大きな損失だと思います。ただ、それらのアイデアや資料の一部は私の講義やゼミでも今も使わせていただいております。それらに触れた学生諸氏が、本田先生のお考えを未来に引き継いでいただければ、と思っています。

よき合理性 本田先生の仕事ぶり

本田宏隆先生の仕事は良き合理性と呼べるものだった。目的も手段も選択の理由は明瞭。いつも理科大にとって、院やキャンパス教養部にとって、あるいは学生・卒業生にとっての良さが第一だった。長万部時代は「わらしべプロジェクト」と称したが、補助金の申請書でも少ない労苦で参加者に大きな得がある企画を練った。最短を選択したがる私の短気を「喧嘩っ早い」と笑って

村上 学 (葛飾キャンパス教養部)

揶揄ってくる。争いの種は回り道してでもそれを避けた。そのくせ自分を冷たいと評する。確かに適材適所をはかる経営者の合理性もあった。それでも誰も損のない調整は必ず試みていた。それはまるでプロメテウスがエピメテウスを思いやるようだった。彼はそれぞれが求める火を渡す仕事が好きだった。今はその火がここそこに灯り続けていることを確かめるばかりである。

この分野は素人なのですが・・・

学会発表を終え、「あとは質疑を乗り切れば」という時に、高名な重鎮の先生が「私はこの分野は素人なのですが…」などと言いながらゆっくりと手を挙げる。そして、そのあまりに鋭く本質的な質問に、うまく答えられずに四苦八苦する…。多くの研究者が、このような体験をしたことがあるのではないのでしょうか。教養教育研究院の先生方はそれぞれ研究分野が異なるので、お互いの研究について尋ねる時には、(学会の重鎮が言うそれとは異なって)本当の意味で「素人」の質問ということになるかもしれません。とはいえ、その分野を知らないがゆえの素朴な質問が学問の核心を鋭くえぐる、というようなこともきっとあるはずです。そこで、ある分野の先生に、他分野の先生がインタビューして学問の本質に迫る、というコーナーを企画しました。第一回は、日本近世史・経済史・北方史がご専門の菅原慶郎先生に、その分野は素人の「素人先生」がお話をうかがいます。



菅原 慶郎

(北海道・長万部キャンパス教養部)

おすすめのコンプ：
ガゴメコンプ(函館産)

第一回

商品<コンプだけではありません!>の流通の歴史

素人先生(以下、素人)：本日はよろしくお願いします。早速ですが、先生が、商品流通の歴史という分野にご自身の情熱を注がれるに至った契機というのは、一体どのようなものなのでしょう？

菅原先生(以下、菅原)：きっかけは、学生時代に日本中を青春18きっぷとかでのんびり旅してたときに読んで本でした。その旅のお供に何気なく読んでいた沖縄の歴史・文化に関する本のなかで、「日本で一番コンプを消費しているのは沖縄」って書いてあって、もうビックリですよ。「え、沖縄ってコンプとれないんじゃないの?」って。それがもう頭から離れなくて。

素人：それは実に興味深いですね。門外漢ゆえの質問ですが、どのような理由なのでしょう？

菅原：秘密は、江戸時代のコンプの流通ルートにあったんです。北海道のコンプが琉球王国(現在の沖縄県)や長崎を経由して中国(当時は清王朝)に売られていたんですけど、交易の船が出せないときとか、コンプが停滞し品質も下がりますよね。そこで「もったいないし、食っちゃおう!」みたいな感じだと思いますが、コンプを消費する文化が生まれたんです。沖縄料理に「クープイリチー」という郷土料理があって、それはコンプ(クープ)の炒めもの(イリチー)なんですよ。本州方面のコンプで出汁を取る文化とも異なるところが面白いポイントでしょうか。

素人：まるで謎を解いていくような研究ですね。それで、その謎が解き明かされた後も、引き続きコンプの研究を続けられたのですか？

菅原：そうなんです。コンプの流通の歴史があまりにも面白くて。「もっと掘り下げたら、どんな秘密が出てくるんだろう?」ってワクワクしちゃって。長崎からコンプを中国に輸出する関係の古文書を調べたら、現在の青森県のコンプも売られていたことがわかって、これまた面白いんです。津軽海峡をはさんで北海道の函館辺りでとれるコンプと種類も同じだけど、青森産は北海道産より安いんです!中国に輸出するときに産地の区別がないので「ほら、北海道産だよ～」って感じて上手に売って利益を得ていたんですね。産地偽装とまではいえないのですが、今の時代にもそういうことする人いそうだなって思うと、人間の営みを見て取れるところがやっぱり面白いですよね。

素人：なるほど…私はこの分野は素人なのですが、経済史の研究者というのは、先生のように特定の特産品に焦点を当てて、そこから深く掘り下げていくことが多いのですか？

菅原：一つの商品に注目する研究者もいますね。コンプの研究はもういち段落して(?)、今は北に流れる商品の研究をしはじめています。コンプは南に流れていくんですが、逆に北海道などに住むアイヌ民族に流通する商品があります。

素人：それはまた興味深いお話ですね。実のところ、アイヌの方々は自身で必要なものを周囲の自然から調達していたという印象がありましたが、外部からも多くの物資を取り入れていたのですか？

菅原：そうです。アイヌ民族は「交易民」でもあります。本州でコンプとかサケが大量消費されて「これ、売れるじゃん!」ってなったら、大いに採って交易に回すんです。その交易で本州方面から手に入れたものとして、たとえば米とか、漆塗りの器(漆器)、それに金属製品などがあります。例えば金属製品の「鍬形」(クワガタムシみたいな形)。これは本州方面で武士たちが、カブトの飾りとして使っていたもので、アイヌ民族の世界に入ると呪術品に様変わりするんです。普段は土の中や洞窟の奥などに置いておいて、コタン(集落)で災害があったときに出してきて、呪術品として使います。ヒトの想像力ってすごいですよね。そして一つの商品(交易品)から、文化の違いまでもがクリアにみえてきます。

素人：なるほど、ヒトの考え方や経済行動が浮き彫りになってまいりますね。そこで、ひとつ率直にご教示いただきたいのですが、その研究はどのような形で役立つのでしょうか？

菅原：(満面の笑みで)その質問、よくされるので答えはバッチリです!「歴史は繰り返す」って言いますよね?例えば、コロナ禍だって、現代人は初めての経験でしたけど、過去の感染症のパンデミックの時には、お祭りの中止、移動制限、患者の隔離など、実際に同じような対策がとられていました。結局、歴史を調べていると、ヒトの行動・思考パターンって、時代が変わっても、あんまり変わらないと感じています。ですから、過去に生きた諸先輩の考え方や生き方から学ぶことで、今に通じるだけではなく、未来を考えることもできると思います!



寒い時は
マフラー代わりになる
優れモノ



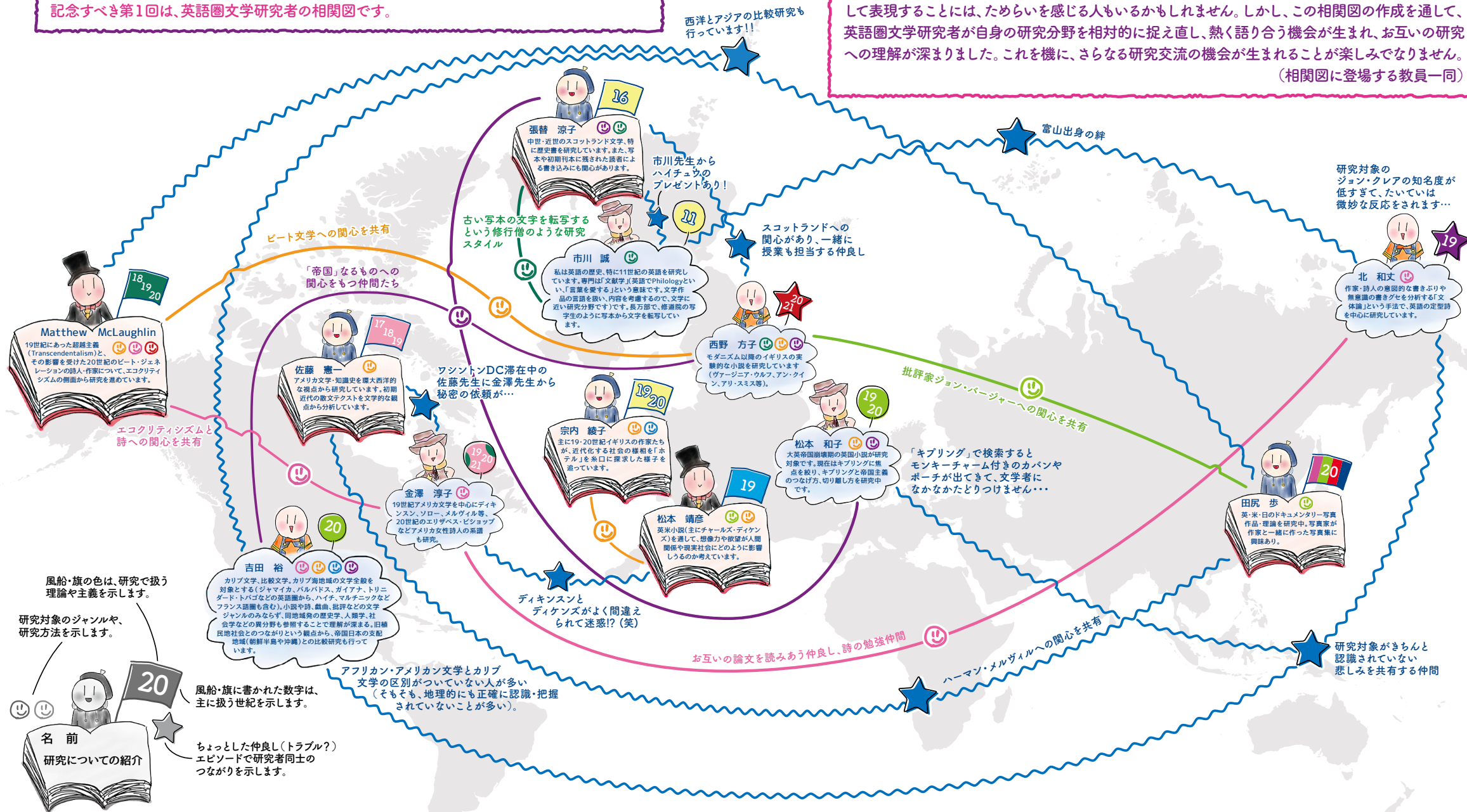
7mにも及ぶコンプの長さ
(最長20mのもの)！
※ミツイシコンプの実物大レプリカ
(菅原研究室所蔵)を使用して撮影



30分でわかって、3時間くらい楽しめる！？ 英語圏文学研究者相関図

教養教育研究院には様々な分野の研究者が所属していますが、異なる分野の研究者がどのようなことに関心を持ち、その関心とどう向き合っているのか、また、同じ分野の研究者同士がどのような関係にあるのかということを知る機会はなかなかありません。そのため、「もっと知りたい研究相関図」と題して、それぞれの研究分野について紹介していただくコーナーをもうけました。
記念すべき第1回は、英語圏文学研究者の相関図です。

一口に英語圏文学研究といっても、扱う地域や時代、研究対象やそのアプローチは多岐にわたります。この度、こうした多様性をわかりやすくご覧に入れるために私たち同士の相関図を作成しました。モデルにしたのはすみだ水族館の「すみだペンギン相関図」です。もちろん、(ペンギンの世界にも同じことが言えると思いますが)研究者の世界は複雑であり、英語圏文学研究の学問体系をひとつの相関図として表現することには、ためらいを感じる人もいるかもしれません。しかし、この相関図の作成を通して、英語圏文学研究者が自身の研究分野を相対的に捉え直し、熱く語り合う機会が生まれ、お互いの研究への理解が深まりました。これを機に、さらなる研究交流の機会が生まれることが楽しみでなりません。
(相関図に登場する教員一同)



🇬🇧 帝国／帝国主義への関心

🇺🇸 批評の研究

🇯🇵 写本を用いた研究

🇬🇧 小説の研究

🇬🇧 詩の研究

🇬🇧 比較研究

🇬🇧 劇曲の研究

🇬🇧 新歴史主義とは、自明の前提とされてきた事実と虚構の境界線を問題化し、その線引きに潜む権力関係を様々なテキストから暴いてゆく研究方法。

🇬🇧 モダニズムとは、20世紀初頭の文学運動。近代化した世界や人間の複雑な内面心理を描くのにふさわしい表現が探求され、技巧を凝らした実験的な作品が多く執筆された。

🇬🇧 エコクリティシズムとは、(英語等の)文学と環境の関係を研究する(人間だけでなく、動物と自然への影響も考える)分野。

🇬🇧 マルクス主義とは、この内部でも立場は様々だが、形式・内容に加え、社会構造や時代的傾向を総合的に捉えて作品を分析する視点のこと。

🇬🇧 ポストコロニアリズムとは、「植民地以降」の意。西洋植民地主義への批判を創作の根底にすえる旧植民地出身の作家や詩人の考え方を総称した表現。また、批評やアカデミアの潮流も指す。

🇬🇧 リアリズムとは、社会や人間の姿を、現実にあるがまま美化することなく(客観的に)描こうとする文学・芸術上の試み。

🇬🇧 19世紀後半の西欧小説・演劇における主潮であったが、その変奏は現代に至るまでの文学・芸術作品に散見する。

🇬🇧 ロマン主義とは、18世紀末～19世紀の思潮。古典主義・合理主義に反抗し、感情・個性・自由を尊重、自然との一体感、神秘的体験や無限なものへの憧れを表現。

🇬🇧 フェミニズムとは、この内部でも立場は様々だが、家父長制を根絶して、全ての人が性的支配や搾取を受けない社会を目指す運動・思想のこと。

キャラクター原画 張替 葵(小6)

英語圏文学研究者紹介



市川 誠 (北海道・長万部キャンパス教養部)
英語史、中世英語文献学

おすすめのスポット (八雲町):
私が住んでいる北海道八雲町のおすすめスポットを紹介します。
1. 噴火湾パノラマパーク 2. 八雲町木彫り熊資料館
3. 梅村庭園



金澤 淳子 (葛飾キャンパス教養部)
アメリカ文学 (特に19・20世紀アメリカ詩)・文化

おすすめの映画 (★☆☆):『静かなる情熱』(2016年) エミリー・ディキンソンを主人公にした映画。史実と異なる部分や、ディキンソン像の設定に残念ながら違和感がある。アマストで撮影が行われたため、風景や邸宅などは当時の雰囲気を感じられる。



北 和丈 (葛飾キャンパス教養部)
応用言語学 (文法論・批判的言説分析・英語教育)

おすすめの海外テレビ番組:『Would I Lie to You?』(BBC) (出演者同士が嘘くさい話の応酬を繰り広げてその巧みさを競う謎番組。英国流のホラとハッタリは全てこの番組から学びました。)



佐藤 恵一 (野田キャンパス教養部)
初期近代トランスアトランティック文学・文化

おすすめの近代アメリカ小説:
1. ハーマン・メルヴィル『白鯨』
2. ナサニエル・ホーソン『緋文字』
3. エドガー・アラン・ポー『黒猫』



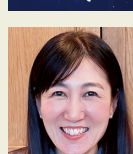
田尻 歩 (葛飾キャンパス教養部)
表象文化論、カルチュラル・スタディーズ

おすすめの本:ジョン・バージャー、ジャン・モア『第七の男』(金聖源、若林恵訳、黒鳥社、2024年)(ヨーロッパにおける移民を取材し、写真と文章で表現した非常に興味深い作品。)



西野 方子 (神楽坂キャンパス教養部)
現代英米・英語圏文学 (20世紀以降のイギリス実験小説)

おすすめの小説:アリ・スミス著、岸本佐知子訳『五月その他の短篇』(河出書房新社、2023年)(イギリスの現代小説。面白い上に比較的読みやすい短編小説をおすすめします。)



張替 涼子 (神楽坂キャンパス教養部)
近世スコットランド文学、書物学

おすすめの映画(★★★):『プレイブ・ハート』(1995年)(スコットランド独立のために命を賭けて戦ったウィリアム・ウォレスを描いた名作。Alba gu bràth!)



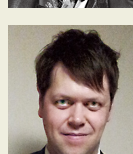
松本 和子 (葛飾キャンパス教養部)
19世紀末～20世紀初頭のイギリス小説

おすすめの映画:『王になろうとした男』(1975年) 同名のキプリング作品の映画版。夢破れて非業の死を遂げる主人公をショーン・コネリーが熟演しています。



松本 靖彦 (野田キャンパス教養部)
ヴィクトリア朝文化研究、19世紀小説

おすすめの小説:佐々木丸美『雪の断章』(創元推理文庫)を面白く読める方はヴィクトリア朝小説(例えばディケンズの『荒涼館』)も楽しめる感性の持ち主です。



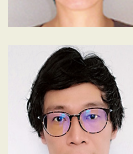
Matthew McLaughlin (葛飾キャンパス教養部)
英米文学、翻訳学、英語教授法

おすすめのスポーツ:キックボクシング!
(今年、近くの金町校でキックボクシングをしはじめました。)



宗内 綾子 (野田キャンパス教養部)
19・20世紀イギリス文学

おすすめの演劇:ノエル・カワード『私生活』(1930) 今日本で上演され続けている、カワードの代表作です。喜劇。1931年の映画版と比べると一興と思います。



吉田 裕 (葛飾キャンパス教養部)
英語圏文学・カリブ文学

おすすめのゆるキャラ:JR 中野駅に生息する「なかわん」